

小児科病棟における多職種連携

～保育士との協働・連携を通して～

5S 病棟師長 高岡 恵



入院患児の場合、成長・発達段階に合わせ、遊びや勉強・コミュニケーションを通して社交性や積極性の向上を図るなど、入院生活をサポートしていく事が重要です。今まで自病棟においては、「医療行為」を通して患児と関わる事が中心であり、「遊び」を通じた支援不足が課題の一つでした。そこで平成 29 年 7 月から小児看護の充実を目指し、小児科病棟に

病棟保育士 1 名が配属されました。現在は、医師・看護師・保育士がそれぞれの視点と役割を発揮しつつ、患児、ご家族に関わっています。病棟保育士の配属により、患児が治療を受けるだけでなく、保育士と遊ぶことによる成長効果を期待でき、子供同士の交流により、明るい笑い声もプレイルームから聞こえる機会が多くなりました。今後も多職種で協力しながら、

子供達が充実した入院生活を送ることができるように、また、家族の支援を含めて環境を整えていくように努めてまいります。



院外ふれあいサロンを活用した地域交流

救急看護認定看護師 外来(中央処置室・ER)主任 富岡久美子



平成 29 年度松山市の高齢化率は 26.42%であり、高齢化が進展する中、安心して充実した生活を送るためには、心身ともに健康である事が大切といえます。今後は、各自がセルフケアの意識で健康づくりに取り組む事が重要です。

今年度、看護部では「地域交流」を掲げ、公民館やサロンに伺い 1 時間～1 時間 30 分の講演会を行いました。

6 月 13 日「土居田豊会ふれあいサロン健康教室：応急手当」、9 月 6 日「山越いきいきサロン健康教室：高齢者がかかりやすい病気とその予防」、9 月 12 日「新玉地区福祉講

座：災害に備えましょう」を開催し、約 25 名～80 名の参加がありました。講義だけではなく、救急車要請の電話対応、災害時の歯磨き方法、喉を鍛えるパタカラ発声や合唱、手洗い検査器を用いた洗い残りの確認など実演・体験型としました。

65 歳以上の参加者が多く、質問も飛び交い、健康への関心の高さ

と生き生きとした素敵な笑顔が印象深く、私自身、活力を頂きました。今回、病院内勤務では体験できない緊張感や地域の繋がりを実感し、貴重な体験となりました。「地域住民のために存在する病院」と掲げた病院理念のもと、今後も地域交流を続け、安心して病院を受診して頂けるよう努めてまいります。

